

目に見えるもの 見えないもの



佐々木 葉

SASAKI Yoh

第112代 土木学会 会長

「本当に大切なものは、目に見えないんだよ」^(注1)。『星の王子さま』では、何度か「目に見えない」ということが語られます。

景觀という分野を学び始めたかつての私は、いや、景觀には大切なことが、目に見える形でちゃんと表れているのだ、と考えていました。それ故、『星の王子さま』に対して、ものより心が大切という、なんとなく情緒的な話をしているなあ、と思っ

ていました。しかし、今は「目に見えない」というフレーズの前に、隠れている言葉があると理解しています。それは、「工夫をしないと」とか「ちゃんと向き合わない」という言葉です。

さて、「見える化」はさまざまなか場面で重視されています。私たち土木の分野においても、例えば表面からは見えない内部の状態を検査によって可視化する対象は広がり、精緻化されています。人や物の複雑な動きもそれ

を代替する数値として見せてくれます。あるいはジェンダーの問題においては、家事などの見えない仕事をシャドーワーク^(注2)という概念でとらえ、議論のテーブルに乗せたことも画期的でした。まさに見えるようにすることは、知であり、技術です。私たちの世界を広げ、くらしを豊かにしてくれます。

一方で、「見た目」という言葉も日常にあふれています。「見た目は子ども、頭脳は大人」というように、外見と中身は一致しないという語感を含みながらも、人々の選択における見た目の影響力は大きく、自身の見た目も気になります。ルッキズムや映え^ばは、あらがうことのできない力を持ち、時に人の心を傷つけます。見た目をどう受け止めるかが、その人の幸せを左右します。

冒頭の『星の王子さま』の言葉に戻りましょう。見えていな



写真：間澤智大

いけれど大切なものはそこに
ある、なのにその大切なものに気
付かない人がいる、と王子さま
は語ります。問題は見る側にあ
ること、ちゃんと向き合い、想
像力という心の目で見れば見え
るのにそれをしないことを指摘
します。心の目で見ない理由に
はいろいろあるでしょう。「目
からうろこが落ちる」というよ
うに、思い込み（アンコンシャ
スバイアス）が視界を曇らせて
いる。あるいは人と違う見方を
することへの不安や、見てし
まった以上、自分ごととして引
き受けねばなくなりそうな
責任を、無意識に回避すること
もあるかもしれません。

見ることには勇気がいらいま
す。でも王子さまは言っていま
す。想像力をもって大切なもの
を眺めるのはとても楽しい、と。
私もそう思います。

土木に関わる会員の皆さん
は、土木の風景をどのように眺

めているでしょうか。あるいは
土木学会という活動の場の風景
をどのように眺めているでしょ
うか。こういうものだ、こうい
うところだという思い込みはあ
りませんか。見る位置、立場を
変えて見たことはありますか。
極めて個人的な気持ちで、土木
の風景に正直にかさねて見たこ
とはありますか。

そうした自由な見方ができる
のが学会という場です。ぜひ皆
さんの想像力を通して見えた土
木の、土木学会の本当に大切な
ものを教えてください。4万人
の会員一人一人が大切なそれを
心に抱いていると想像するだけ
で、互いに力が湧いてくる。そ
ういうすてきな土木学会の風景
が描けるといいなと、思ってい
ます。

（注1）サン・テグジュペリ『星の王子さ
ま』の日本語訳はいろいろありますが、こ
こでは浅岡夢二訳（ゴマブックス、20
08年）を参照。
（注2）哲学者・評論家イヴァン・イリ
チの造語。